

## 令和元年度 第2回伊勢市スポーツ推進審議会 会議録（概要）

1 日 時 令和2年2月28日（金）19：00～20：00

2 場 所 小俣公民館1階 第1会議室

3 出席者 委 員

北村 峯記（伊勢市スポーツ推進委員連絡協議会）

龍田 洋（伊勢市体育協会）

中西 武寿（伊勢市スポーツ少年団）

奥田 守（伊勢市レクリエーション協会）

小嶋 幸博（伊勢市小学校体育部会）

田村 善保（総合型地域スポーツクラブ）

平沼 美智子（健康づくり・スポーツ女性指導者）

立花 和子（健康づくり・スポーツ女性指導者）

小木曾 一之（学識経験者）

事務局（伊勢市教育委員会事務局スポーツ課）

沖塚 孝久（スポーツ課長）

日置 純子（スポーツ課課長補佐）

八田 信（スポーツ課スポーツ施設係長）

4 概 要

（1）あいさつ（伊勢市教育委員会事務局スポーツ課長 沖塚 孝久）

（2）協議事項

- ・第2期伊勢市スポーツ推進計画の令和元年度実施計画の取組状況について  
（事務局説明）

（質疑応答）

### 2 関係団体の強化と連携強化

- ① 少子化に伴い中学校のクラブも、これまであったクラブが廃部になっている学校もある。廃部になったクラブについては、総合型地域スポーツクラブで引き継いでいるものもあるが、少子化が進む中で、今後のことも考慮し、指導者バンクを利用したマッチングシステムを構築していく必要があるのではないか。三重県指導者バンクは、公認資格がなくても登録でき

ると聞いているが、市も公認なくても登録できれば総合型地域スポーツクラブからも登録できる人もいると思うので、指導者バンクが充実していくのではないかと。

事務局⇒ 有資格者からの指導を受けた方が、受講者の信頼を得られる。総合型地域スポーツクラブの指導者としては、有資格者にだけに限っていないが、指導者バンクとしては有資格者に限定させてもらっている。資格取得については、伊勢市体育協会からの補助メニューもあるので、こちらへもつなげていきたい。

副会長⇒ 体育協会としても各競技団体で、資格取得を進めている。

会 長⇒ 総合型地域スポーツクラブと各種競技は、少し違うので、分けて考えていくべきである。また、学校クラブは先生に関与してもらわないといけない部分もあるので、そのあたりも考えて指導者バンクの活用を考えていく必要がある。

(学校体育とスポーツは分けて考える)

また、公認資格を取る前に、市独自のシステムを考えてみるのもよい。年に数回の講習会等に参加してもらうことにより、市独自の指導者として活動できることとし、その経験を経て、公認資格取得につなげていく、というような市で指導者を育てていくシステムを体育協会と連携して作ってみてはどうか。

- ② 小中学生対象のバレーボール教室を開催しているが、これまで児童生徒は女子ばかりであった。来年度から男子の教室も作る予定であるが、体育協会と連携し指導者を依頼している。
- ③ 小俣総合体育館を利用することが多いが、交通の便がよくない。参加者も高齢化してきているので、体育館まで行くことが大変である。
- ④ ボッチャ交流大会開催際に、小俣総合体育館を会場としたが、会場までの交通手段を整理すれば、もう少し参加者が増えるのではないかと思う。

事務局⇒ 交通政策課とも相談する。

- ⑤ 障がい者スポーツの指導については、障がい者をサポートできる講習を受講していないとサポートしきれない部分がある。

事務局⇒ 市としても取り組んでいく必要がある。

#### 4 スポーツ施設の利便性の向上

① 国体の後のスポーツ施設の活用はどのように考えているのか。

(赤字を出さないような工夫、有名チームの試合等の開催を見せるなど)

事務局⇒ 特定施設においては、誘客につなげていくよう考えている。例えば、フットボールヴィレッジは公認人工芝が4面あるので、公認が必要な試合もできるが、ダイムスタジアム伊勢、市営庭球場については、利用率が高いため誘客につなげにくいところがある。

② 旧学校跡地利用は具体的には？

事務局⇒ 市の方針が決定するまで、必要に応じて暫定的に活用している。

公共施設マネジメントに基づき考えていくことになる。

防災的観点(避難所等)→市の他部署での利用→民間活用という順で考え、それでも利用がなければ除却ということになる。その都度協議をすることになるので、決定までに時間がかかる。

③ 統合した後の新しい学校は、どのような使用になるのか。

事務局⇒ これまでと同様に学校開放として使用できる。